

令和8年度第1回ひと咲きまち咲きあまがさき推進会議 議事録

日時：令和8年5月19日（火） 9：40～10：20

開催手法：WEB会議

1. 開会

（副座長）

令和8年度第1回ひと咲きまち咲きあまがさき推進会議を開催いたします。本日の協議事項は、「後期計画策定に向けた検討状況」と、「ファミリー世帯に関する調査結果の概要説明」、および「後期計画策定に向けた考え方についての意見交換」の3件です。

それでは事務局から説明をお願いします。

2. 後期計画策定に向けた検討状況について

3. ファミリー世帯に関する調査結果の概要について

<事務局より資料に基づいて説明>

（副座長）

それでは、今の2点の説明に対して、ご意見あるいはご質問がありましたらお願いいたします。

（委員）

施策体系について、事務局案の観光と文化・スポーツの統合案については、今の方針としてもそぐわないと考えます。総合文化センターなどの取組は、対外的に人を呼び込むというよりも、市内中高生や市民のコミュニティ施設として、市民に向けた役割が適切と考えますので、現行通りの施策体系を維持すべきと考えます。

また、アンケートで尼崎市を選ばれた方の約6割が他市と比較したとの説明がありましたが、具体的にどの市と比較対象となったのか詳細を教えてください。

（事務局）

アンケートで尼崎市を選ばれた方が比較対象とした自治体は、順位順に西宮市、伊丹市、大阪市、神戸市、豊中市などであり、明石市の比較率は非常に低いという結果でした。

（委員）

施策体系の見直しについて、局の意見を補足いたします。歴史・観光と歴史文化・スポーツの統合案については、現在阪神・尼崎エリアで実施している歴史と連携した取り組みの実績を踏まえつつ、総合計画で一つの施策に統合すると、対象が市民か観光客かの区別や目的が曖昧になり、特に観光施策が埋もれる可能性があると考えます。観光は地域経済への波及効果を重視する分野です。

が、歴史文化やスポーツとは性質が異なるため、別々に扱う方が進捗管理や成果の可視化の観点から適切と考えます。

（委員）

ファミリーアンケートの対象者の対象者は、4歳以下の子どもがいる家族という定義で問題ないかを確認したいです。アンケート回答者には50～60代の方も含まれているが、どのように分析していますか。

特に学校教育の満足度が低い傾向について、これがイメージによる評価なのか、実際に学校に通っている子どもがいる世帯の実態を反映しているのか、分析結果があれば教えてください。また、今後ファミリー世帯への施策を検討するにあたり、対象層をより絞り込む考え方があるのかについても伺いたいです。

（事務局）

アンケートの対象は、0～4歳の子どもがいる世帯に送付しており、回答者に50～60代が含まれるのは、世帯主が祖父母の場合や世帯主自身が親であるケースがあるためです。家族構成別の詳細な分析は今後の課題で、現在は単純集計の結果となっています。

ファミリー世帯の定義については、市長からの検討指示を受け、現在は「0～4歳の子どもがいる世帯」を優先対象としつつ、将来的にファミリー予備軍や市内で結婚・出産する単身者も含めることも検討を進めています。

（委員）

ファミリー世帯のアンケートで「教育環境」の重要度が高いという結果ですが、施設の老朽化、学力、通学時間など様々なことが考えられますが、具体的に何を指しているのか分析はありますか。

（事務局）

今回のファミリー世帯アンケートでは、対象が0～4歳のお子様のいる世帯のため、教育環境の詳細な項目までは調査できておりません。住宅選択時の優先事項を中心にお聞きした内容となっております。

一方、毎年実施している市民意識調査では、幅広い年代向けに教育環境の詳細な項目を質問項目に含めることが可能ですので、必要に応じてそちらで細分化した質問を追加し、子育て層のお子様の学齢などに分類して分析することも検討できるかと思えます。

（委員）

先ほどロジックモデルについて説明があったが、詳細を教えてください。

（事務局）

現在、最上位の成果指標としてファミリー世帯の転出超過数を設定していますが、これは周辺自

治体の住宅事情や景気動向の影響を受けやすく、まちの魅力や施策の効果を適切に反映できていないという課題があります。

そこで、各施策がファミリー層の満足度向上にどのように寄与するかを論理的に結びつけるロジックモデルを導入し、総合計画の策定に反映させたいと考えています。

具体的には、中事業の積み重ねが施策目標や主要取組項目につながり、最終的に最上位の生活満足度など向上に相関する仕組みを可視化するもので、今後試行的に構築していく予定です。作業はこれから開始するため、具体的な施策や事業への適用については改めてご説明・ご協力をお願いすることになります。

(副座長)

それでは、次の議題に移ります。事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

<事務局より資料に基づいて説明>

(副座長)

冒頭で事務局からご説明いたしましたように、本日の説明内容について何かを決定するわけではなく、今後の主要取組項目や総合指標の検討に向けた参考として、皆様から自由なご意見をいただければと思います。

(委員)

エリアごとの成り立ちや都市特性を踏まえたまちづくりの議論において、阪神・尼崎駅周辺のファミリー居住の適性についての指摘がありましたが、これは当該エリアのファミリー居住を完全に排除する意図ではなく、むしろエリアごとの特性を活かしたブランディングや取り組みが重要だと考えております。特に都市整備局では、県と連携して阪神・尼崎駅西側や南側エリアでのファミリー向け住宅取得支援を進めており、南部地域のファミリー居住はむしろ強化していく方向性との認識です。

(委員)

これまでの総合計画では課題克服が中心でしたが、強みを伸ばす時代になったことに大きな時代の変化を感じます。

エリアブランディングの重要性は理解しつつも、市民にとって地区の概念はあまり関係ないように思います。エリアごとのまちづくりは、どのようなエリアでやっていくのか難しいところだと思います。

(委員)

まちの強みについて議論する中で、市内の陸上競技場やバイコム総合体育館の立地を不便とネガ

タイプに捉えていましたが、市外の方からすると、JR 尼崎駅から徒歩で来られる優れた立地と高く評価されることを知り、市外の視点から見た尼崎の強みに改めて気づかされました。

（副座長）

これまでの様々なご意見を踏まえ、市長からのご所見を伺えればと存じます。

（座長）

皆様から大変活発なご意見をいただき、誠にありがとうございました。総合計画策定に向けて非常に有意義な議論ができたと感じております。

尼崎が持つ強みを伸ばしていくだけでなく、強みでなくなる恐れがあることへ対応していくことも重要と考えます。例えば、交通政策をしっかりとやって、交通利便性を高めるといったことは重要な政策課題と考えます。

また、地域資源をうまく活用することや、そのためにまちの良さや強みを見つけていくということも重要と感じます。武庫之荘のあたりでは、ジャズが盛んであり、地域に根差した音楽スクールやジャズバーなどがあり、地域の方の自主的な活動等が見られます。こうした地域の資源や活動を総文はうまく使えているかということそうではないように感じる部分もあるため、地域資源を上手に使っていくことも大事な視点と感じます。

今後も引き続き、様々な観点から議論を深めてまいりたいと思います。

（副座長）

本日の会議は以上とさせていただきます。それでは、第1回ひと咲きまち咲きあまがさき推進会議を閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。

以 上